

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：土木費 項：都市計画費 目：都市公園費

事業名 県営都市公園魅力向上再整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

都市建築部都市公園整備局 都市公園課 活用推進係 電話番号：058-272-1111(内 3772)

E-mail: c11669@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,052,980千円(前年度予算額：1,119,500千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附 金	その 他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,119,500	0	0	0	0	0	0	856,000	263,500
要求額	1,052,980	0	0	0	0	0	0	700,400	352,580
決定額	1,052,980	0	0	0	0	0	0	700,400	352,580

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 平成28年10月に策定した「岐阜県都市公園活性化基本戦略」に基づき、花フェスタ記念公園、養老公園、世界淡水魚園、ぎふ清流里山公園の4つの公園において、ハード・ソフトの両面にわたる事業を展開し、更なる展開を図るため次期「岐阜県都市公園活性化戦略」を令和2年度中に策定する予定。
- 基本戦略では、公園の活性化に向け、テーマや取組方針とその展開を明らかにし、ハード・ソフトの両面にわたる具体的な取組内容を定めるものであり、これまで公園ごとに策定した「公園施設長寿命化計画」に加え、基本戦略に基づいた公園の魅力向上に資する整備を行い、公園の活性化とともに、県内への交流人口の拡大など、基本戦略に掲げた目標の達成に取り組んでいく。

(2) 事業内容(主な整備等)

① 花フェスタ記念公園 502,222千円

- ・花回廊整備
- ・案内標識更新設計委託・工事

② 養老公園 134,333千円

- ・法面防災対策

- ・ 養老天命反転地管理棟修繕工事

③ 世界淡水魚園 257,933 千円

- ・ 商業施設第 4 棟解体事業

④ ぎふ清流里山公園 158,492 千円

- ・ 建築・機械電気設備改修工事

(3) 県負担・補助率の考え方

基本戦略に基づく活性化に向けた取組み（指定管理者が指定管理者業務として行うものを除く）であり、県が主体となって実施する。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事委託料	160,600	事業内容に示すとおり
業務委託料	109,600	事業内容に示すとおり
工事請負費	645,540	事業内容に示すとおり
その他	31,942	事業内容に示すとおり
事務費	105,298	上記にかかる事務費
合計	1,052,980	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 岐阜県都市公園活性化基本戦略
- ・ 岐阜県成長・雇用戦略

7 成長分野ごとの施策、 (3) 観光分野

主要観光地再生プロジェクト (1) 県営公園誘客促進プロジェクト

(2) 後年度の財政負担

令和 2 度中に策定を進めている次期基本戦略に基づき、ソフト・ハード両面において、継続して活性化策に取り組んでいく。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

何をいつまでにどのような状態にしたいのか

- ・ 県営4公園それぞれの入園者数を次期戦略の終期（令和7年度）までに、底上げを達成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始 前	指標の推移			現在値 <small>(前々年度末時点)</small>	目 標	達成率
		(H29)	(H30)	(R1)			
来園者数	(H26)	(H29)	(H30)	(R1)	(R1)	(R3)	—
養老公園	80万人	120万	125万人	137万人	137万人	115万人	143%
里山公園	32万人	19万	70万人	64万人	64万人	70万人	218%
河川環境楽園全体	448万人	452万	462万人	463万人	463万人	460万人	103%
花フェス	35万人	38万	38万人	43万人	43万人	49万人	140%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

事業の活動内容

- ・ 岐阜県公園施設長寿命化計画に基づく公園整備

（前年度の成果）

前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

- ・ 戦略を策定したことにより、計画的に事業を実施することができる。
- ・ 公園施設長寿命化計画に基づき、園内の整備が進んだことにより、来園者へのホスピタリティの向上に寄与した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	県営都市公園は、県民の憩いの場であり、生活に潤いと安らぎを与えるとともに、特に主要4公園は年間入場者数が30万人を超える重要な観光資源でもある。一方で入園者数が減少傾向にあり、さらに機能を充実させ多面的な役割を発揮するべく活性化に向けて戦略的に取り組むことの必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	活性化戦略策定前（平成27年度）と比べ、入園者は増加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設老朽化・陳腐化、趣味の多様化等に対応しきれず、維持管理費が増嵩し、入園者数は減少傾向にある。

(次年度の方向性)

継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <ul style="list-style-type: none"> ・ 次期基本戦略の期間中に、県営都市公園のポテンシャルを最大限に発揮するとともに、多様な地域資源をつなぐ拠点として「清流の国ぎふ」に相応しいブランドの確立に貢献していくため、基本戦略に基づき計画的にソフト・ハード両面において展開していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	